

<英文法超基礎(72)> Lv.★★★★☆☆ 対象:中3~

① 仮定法とは

「仮定法」とは「実際とはちがう、仮にそうだったら」を表すときに使われる形式
→「仮想」であることを示すために (1.)をズラす!

② 仮定法過去

「(今はちがうけど) 今、仮にこうなら」と (2.)の事実や状況に反する
仮定を表す場合、(3.)を使う! この形を**仮定法過去**という。

<仮定法過去の基本形>

(4.)
「5. 」

If I were you, I would help her. 「もし私があなただったら、
if節[条件・仮定節] 帰結節 彼女のことを助けるだろう」

→ 主語が I にもかかわらず、動詞が (6.) になっているのは、仮定法において
be動詞の過去形の形は元々すべて (6.) だから!

↑ ただ今は、was (普通の過去形の文) が使われることが多くなっている。

★ 「現実から離れている」ことを表すために (7.) を使う!

If I had time tomorrow, I could go with you.

「もしあす私に時間があるなら、あなたといっしょに行けるのになあ」

→ 未来においても可能性がありえないことを表すときは、**仮定法過去**を使う。

③ 現在の事実に対する願望

I wish I were younger. 「もっと若ければなあ」

→ 「(実際はちがうけど) そうであればいいのに」と願望や嘆きを表す。

「現在」と異なる願望を表すので、wishに続く節の中は (8.) となる。

★ S wish S' + (9.): 「10. 」

I wish I could speak English. 「英語を話せたらなあ」

4 直説法と仮定法

「実際にあること・あったこと」を述べる動詞の活用の仕方を(11.)といひ。
いわゆる普通の**現在形**とか**過去形**のこと!

・ If Mike **is** not busy, he **will** help me.

「もしマイクが忙しくなければ、手伝ってくれるだろう」

→ 「もし忙しくないなら…」と言っているのは、「忙しい」可能性と「忙しくない」可能性を半々で表すイメージで話してる。このときは単なる条件を表す直説法の文となる。(仮定法ではない!)

・ If Mike **were** not busy, he **would** help me.

「もしマイクが忙しくなかったら、手伝ってくれるのだが」

→ 「今マイクが忙しい」のほわわてる状況で、「もし忙しくないなら…」と**仮の話**として述べている。← **これが仮定法!**

<仮定法の見極め方>

(12.)があつたら、ではなく(13.)があつたら、
で判断する! → (14.)として機能する!

Q 「試験に受かるといいね」と言うとき、wishとhopeのどちらを使う?

・ I **wish** you **could** pass the exam. / I **hope** you **pass** the exam.

→ **仮定法**なので、「(受かるはずはないけど)」 → **直説法**なので、「受かる可能性」を
含むニュアンスを含んでしまう。(X) 含んだニュアンス!(O)

5 その他の仮定法の表現

・ (15.): 「16.

Without your help, I **couldn't** finish the job.

= If you **didn't** help me, ... 「(もし)あなたの**助けがなければ**,

その仕事を終えることができないだろう」

・ (17.): 「18. 」

If only I had wings! 「翼が**ありさえすればなあ**」

= I wish I had wings.

・ (19.): 「20. 」

I'd like to meet your friends. 「(もしよければ)あなたのお友達に**会いたい**」